



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—160 2024.3.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

学校の働き方改革の「着地点」はどうなるのか

副代表 中川路 守

「学校の働き方改革」が社会的な問題として認知されてから早8年ですが、劇的な改善にはつながらず、現在、再度の中央教育審議会が開催され「教員確保」を主たる目的として業務改善を含めた議論が最終盤を迎えていきます。今、学校に限らず、どの業種・職種も慢性的な人員不足や長時間労働の問題を抱えています。労働者にかかる負担は増え、過労に耐えられなければ、心身に故障を起こします。厚生労働省と文部科学省は精神疾患によって1か月以上の休みを取得した職員の割合を公表しています。鹿児島県においては、民間企業の0.5%に対して公立学校の教員は1.05%で、民間企業の労働者の2倍以上の割合になっています。この数値は全国平均とほぼ同様です。休みに至った経緯はさまざまですが、学校が民間企業の2倍以上のリスクにさらされていることは確かです。2019年の中央教育審議会答申に基づく通知で、文科省は「学校及び教師が担う業務の明確化・適正化」等の4つの視点とそれにもとづく具体策を提示しました。勤務時間外の朝のあいさつ指導や、自分も食べながら指導する給食指導等の改善等が言及されましたが、どこか「業務改善は学校がすること」ことみたいなとらえ方があったのではないかと私は理解しています。一方で、教員の授業改善のために実施されているはずの全国学力学習状況調査が、都道府県や市町村ごとの点数競争に使われたり、大学の教員養成課程で学ぶことのなかったプログラミング教育や小学校での英語指導を、研修の機会も十分でないままに実施せざるをえなかつたりすることが大きな負担になっているのが実情です。連合総研は全国調査を行い「授

業そのものが大きな負担になっている」という分析を示しました。これは非常に深刻な事態だと思います。



さらに、学級経営や学校行事等に関わって、保護者や地域からのさまざまな要求もあります。例えば、「仕事が忙しくて授業参観には行けないから、授業をライブ中継して」という要求に応えてしまったことで、メンタルダウンに追い込まれた教員がいました。保護者は我が子可愛さに学校でのようすを知りたいのしようが、教員は自己の一挙手一投足をずっと「監視」されているように感じます。多くの教員は、子どもが好きで「子どものために」と考えて、日々の授業づくり・学級づくりにとりこんでいるだけに、そうしたことが「落とし穴」になることを、教育に関わるすべての人は認識しておく必要があると思います。

冒頭紹介した中央教育審議会の内容を誘導するように、自民党は先んじて「提言」を公表しました。教員の手当を増額・新設すればいいというものです。自民党らしい提案であり、この提言をベースに議論がすすめられています。ただし、仮に手当を倍増させたとしても、対処すべき業務が減ることはありません。先述したように、点数主義の撤廃や高度で膨大な学習内容の削減等、文部科学省の政策を大きく変えない限りは、教職員が心身ともに疲弊する状況を変えることは無理です。「授業そのものが大きな負担になっている」状況が、子どもにとっても、教員にとっても不幸な状況です。やはり、政治を変えていくことが重要だと思います。

2.11 「紀元節」復活に反対し、思想・信教の自由を守る県民集会

集会は 2 月 10 日午後、鹿児島市国際交流センターで開催、63 人ほどが参加し、主催者あいさつに続いて、DVD「教育と愛国」の上映・鑑賞後、意見交換会を開催しました。

主催者あいさつで下馬場学・県護憲平和フォーラム共同代表は『2 月 11 日の建国記念の日』は戦後廃止された「紀元節」の復活であり、国民主権に反するものと言わねばならない」と、その意味を以下のように説明しました。



「建国の日」は戦前までは「紀元節」～初代天皇とされる神武天皇が即位した日を紀元の初めとしたもので、神武天皇の即位日が紀元前 660 年 1 月 1 日とされた。明治 6 年(1873 年)、これを新暦に換算して 2 月 11 日を「紀元節」と定めた。この後、1948 年(昭和 23 年)国家神道を排除しようとする過程で「建国の日」は廃止、しかし 1951 年ころから「紀元節」復活をさせようとする動きの中で、1966 年(昭和 41 年)「2 月 11 日を『建国記念の日』とする」ことを政令で決定した。

『教育と愛国』DVD 上映

～テーマ：教科書問題を考える「政治が教育の場に」学校で起きていること～

映画でのキーワード「愛国者」がどう作られていったか、その中心課題が社会科での「従軍慰安婦」問題であり、朝鮮人労働者の強制労働問題、そして沖縄戦の集団自決問題に焦点が当てられるが、書き換えなどの指導は「命令ではない」形で出版社・執筆者へ伝えられ、いつの間にか政府の思惑通りに内容が書き換えられるという場面を見事に映し出していました。

2006 年の教育基本法改定では、いわゆる「愛国心条項」が追加され、国家権力が定義する「愛国」に教育現場や教科書会社が忖度するようになっていきました。

また過去の戦争加害に関する「政府の統一見解」が時の政権によって閣議決定され、教科書にもそれが反映されてきています。それは 2021 年高等学校「日本史」の教科書検定で次のように書き換えられました。朝鮮半島での「強制連行」が「動員」や「徴用」に「従軍慰安婦」に関しては軍の関与を否定して「慰安婦」と訂正されて行きました。

また、2014 年第 2 次安倍政権は、教育委員会制度改革に踏み込み「教育委員長」はそれまで教育委員の中で選任されていましたが、首長が任命するという制度へ変わり、首長の意向が教育行政に反映されやすくなつたという現実があります。作品に幾人もの「愛国者」が登場するが、その代表が安倍晋三(元)首相になるのか? この映画を是非多くの皆さんに観ていただきたいと思いました。

集会最後に、会場からの意見～3 人の方から発言があり「①ガーデンズシネマ(マルヤガーデンズ 7F)で上映される映画は事実を伝えるもので決して左翼的なものではない。②「9 の日」行動を JR 鹿児島中央駅前で毎月開催、いま「若者」も結構チラシを受け取ってくれると。③歴史に学ぶことの大切さを痛感、こんな企画を「共闘の場」で企画してください。」など貴重な意見をいただきました。

平和な未来が壊される とめよう軍備増強

基地のない九州・南西諸島をつくる集会in鹿児島



2月17日(土)14時より、鹿児島天文館公園において、九州各県(沖縄含む)の仲間と県内各ブロックからの参加(約600名)のもと、集会およびアピール行動(デモ行進)を行いました。

主催者を代表して「平和・人権・環境福岡県フォーラム」の野田和之代表が

「相次ぐ戦争(ウクライナ・パレスチナ)を止めるのは軍事力ではなく、必至の外交努力だ。軍事力では解決できない」と訴えました、フォーラム中央「染裕之事務局長」全国基地ネット代表委員「米村豊」の各氏より連帯挨拶を受け、各県の代表が、それぞれの地元で進む基地整備などを報告。鹿児島県護憲平和フォーラム共同代表の下馬場学さんが4月から鹿屋海自基地での無人機試験運用の報道に関し「既定路線と怒りがわく。このままでは米国のために日本になってしまう。主権者として声を上げ続けよう」と報告しました。



鹿児島市職労の南紫織さんの「集会スローガン・アピール」の提案を参加者全員で確認。沖縄平和運動センター共同代表の当山勝利さんの団結ガンバローで集会を閉じ、天文館一帯をデモ行進し、「馬毛島基地建設に反対」「オスプレイ配備計画を止めよう」などとシュプレヒコールをあげました。



大隅ブロック 平和運動センターでは、2024年の新年合同旗開き＆ナンコ大会を2月2日鹿屋市のホテル大蔵において4年ぶりに開催しました。大会には来賓として前野義春県議、県フォーラムの下馬場学共同代表にも参加いただき交流会およびナンコ大会にも参加くださいました。

当日は、15団体、50名の参加があり鹿教組肝属の東書記長の乾杯の後、交流スタート。大隅ブロックの吉崎副議長（垂水市職）の軽妙な司会でナンコ大会が始まりました。ナンコを初めて体験する若い組合員や経験豊かな方々等。大変賑やかな大会となりました。

久しぶりの開催でしたが、集まり・団結して行動することの大切さを改めて感じた1日となりました。大会は盛況なうちに一松議長の団結がんばろうで締めくくりとなりました。



熊毛ブロック「2.11 紀元節の日に、馬毛島基地問題を考える」講演会 2月10日午後1時より、西之表市民会館で『沖縄から馬毛島基地建設を考える』をテーマに、島袋夏子（琉球朝日放送：制作プロデューサー）さんを招き講演会を開催（参加者60名）しました。講演に先立ち、熊毛ブロック大石代表が挨拶を行い、その中で馬毛島の現状報告として、米軍によるFCLPの施設の建設であった計画が、短期間の間に自衛隊を含めた軍事基地化に様態が変貌していることに触れ、今回の講演からの学びも活かしながら、改めて、今後の運動のあり方について考えていくことを呼びかけました。講演では、まず、島袋さんがベトナムの化学兵器被害についての取材をした時の状況について、映像をまみえながら、その影響が半世紀以上にわたり続いていることについて、社会経済や日常に入り込んでいる現状についての話がありました。そして、当時、沖縄においてその化学兵器が訓練で使用されていた可能性について、米軍が使用する消火剤（PFOS）による環境汚染の現状について、合わせて、その使用や処理状況が、軍事機密として情報が出ないことの問題について話しました。次に、防衛大綱の変遷に触れ、専守防衛であったはずが、防衛力整備計画において軍事活動の拡大に歯止めがかかる、敵地攻撃能力の保持が始まっていることについて、また、沖縄での基地施設整備や部隊配備などが、当初の予定から全く変わっていくこと、経済効果等に話をすり替えられるため、地元の中が揉めていき、時間の経過とともに色々な繋がりにより複雑化することで、更なる混乱を生じさせていることなどを、元防衛大臣のインタビュー、石垣島や核シェルター設置にかかる取材VTR等も流しながら話をしていただきました。

紀元節復活反対奄美地区集会・報告

2・11「紀元節」復活反対の日（建国記念の日）に平和を考えると銘打って、県護憲平和フォーラム事務長の磨島昭広さんに「馬毛島」軍事基地建設から1年の現状と課題について語っていただきました。

まず「紀元節」とは、明治政府が、天皇の権威と国を統治するために、史実にもとづかない神武天皇即位を祝った日を、神国日本の始まり日と位置づけたと説明しました。2006年の安倍政権の教育基本法改悪は、愛国心教育を押し進め、戦前の国家主義体制に回帰を狙う政策であったと非難し「紀元節復活」に反対していくと訴え、現在、すすんでいる南西諸島日米軍事一体化の状況の報告がありました。

